2026年度 第6回（11月）北辰テスト対策 予想問題　解答・解説

国語

1　問1（4点）

イ

①の直後に根拠がある。「三者面談は、来週の金曜日に予定されていた。父の工場は、ちょうどその時期、納期が重なって忙しいらしかった」とあり、面談に来られない事情が示されている。

・イ「面談に父が来られないと知り、自分の受験に父があまり関心を持っていないように思えて、寂しさを感じている」が正答

・ア「腹を立て、今後口をきかない」は本文にない

・ウ「母に不満を感じ、父にも来てほしいと強く要求している」は本文にない

・エ「誰にも相談できないことに不安」は本文にない（志望校選びの自信の話ではない）

採点ポイント: 寂しさの対象が「受験への関心の低さ」にあると読み取れているか。

1　問2（4点）

イ

②の直後、ソウマは「別に、気にしてなんかいない」と言いながらも、「自分の声が揺れているのがわかった」とあり、さらに「わずかな寂しさがあることに、自分でも気づいていた」と続く。父の言葉が図星でありながら、素直に認められずにいる様子が描かれている。

・イ「父の言葉に寂しさを感じつつも、素直には認めたくなくて、言葉に詰まっている」が正答

・ア「もう気にしないと決めている」は本文と矛盾

・ウ「見捨てられたと感じ、激しく言い返そうとしている」は本文にない

・エ「気にせず聞き流そうとしている」は本文にない（声が揺れていることからも気にしている）

採点ポイント:「否定の言葉」と「本当は図星だと分かっている内心」のずれを読み取れているか。

1　問3（6点）

（例） 詳しくない自分が関わると負担になるかもしれないが、ソウマを応援したい（34字）

正答例:

・(例1) 詳しくない自分が関わると負担になるかもしれないが、ソウマを応援したい（34字）

・(例2) 自分が口を出すとソウマの負担になりそうだが、それでも応援したい（31字）

根拠: ③の直後に父は「でも、お前のことは応援したいと思ってるんだぞ。」と付け加えている。③の発言とあわせて、学校のことに詳しくない自分が関わることでソウマの負担になることを心配しつつ、それでも応援したいという前向きな思いが読み取れる。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
①「負担」が使えている	1点	指定語必須
②「応援」が使えている	1点	指定語必須
③ 自分が関わるとソウマの負担になりうるという内容が示されている	2点	「関わると負担になる」等
④ それでも応援したいという気持ちが示されている	1点	「応援したい」等（③の直後の父の言葉が根拠）
⑤ 25〜35字の字数を守っている	1点	逸脱は減点

指定語の使用順序は問わない。

1　問4（4点）

イ

④の直前で、父が「邪魔になるんじゃないかって、最近思うようになった」と打ち明け、ソウマも驚きながら「俺は別に、一人で決めたいとかじゃないけどな」と応じている。父は無関心だったのではなく、自分の邪魔にならないよう気づかっていたのだと分かり、肩の力が抜けたと読み取れる。

・イ「父は無関心だったのではなく、自分の邪魔にならないよう気づかっていたのだと知り、気持ちが軽くなっている」が正答

・ア「自分の責任がなくなった」は本文にない

・ウ「言い返せたことに満足し、優越感」は本文にない

・エ「これ以上話し合う必要がないと感じている」は本文にない（この直後も会話が続いている）

採点ポイント: 「不安がなくなった」のではなく「父は無関心なのではなく、自分を気づかっていたと分かった」という変化を捉えているか。

1　問5（5点）

ア

⑤の直前、父は「面談には行けないけど、帰ったら、ちゃんと話を聞かせてくれ」と言い、ソウマも「今度は、ちゃんと自分の考え、話すから」と応じている。面談に父が来るわけではないが、気持ちを伝え合えたことへの手応えが描かれている。

・ア「父が面談に来ることになったわけではないが、気持ちを伝え合えたことに手応えを感じている」が正答

・イ「気が抜けている」は本文にない

・ウ「完全に勝ったという確信」は本文にない（話し合いに勝ち負けはない）

・エ「自分で決めなくてもよいと安心している」は本文にない

採点ポイント: 「結果（面談に来る／来ない）」ではなく「気持ちを伝え合えた手応え」に心情の核があることを区別できているか。

1　問6（5点）

ウ・オ

・ア: ソウマと父の会話のやり取り（「お前、一対一で話すとなると急に黙るよな」「俺、学校のことはよくわからないから……」等）を通して、互いの本音が明らかになっていく構成→適切

・イ: 「胸の奥に広がっていく」は寂しさという感情を身体感覚で表した比喩的表現→適切

・ウ: 本文には「」でくくられた会話文が多数あり、地の文だけで構成されているわけではない→不適切→正答

・エ: 「一人で決めたいとかじゃないけどな」（ソウマ）と「ちゃんと話を聞かせてくれ」（父）という言葉が響き合い、二人が本音を伝え合う関係に変化したことを印象づけている→適切

・オ: 本文は、夕食の場面・夕食後の会話・翌朝という時間の流れで構成されており、受験が終わった後の様子は描かれていない→不適切→正答

採点ポイント: ウ・オの2つを両方選んで正答（5点）。過不足があれば0点（部分点なし）。

2　問1(1)（2点）

げんしゅく

厳粛＝おごそかで気持ちが引き締まる様子。

採点ポイント: 「げんしゅく」以外の読みは不正解。

2　問1(2)（2点）

はげ

励む＝目標のために努力を続ける。

採点ポイント: 下線部は「励」。読みは「はげ」(「はげむ」と書いても可)。音読みでの誤読に注意。

2　問1(3)（2点）

効率

採点ポイント:「効」の字形（交＋力）の書き誤りに注意。

2　問1(4)（2点）

判断

採点ポイント: 似た意味の「判定」との混同に注意（ここでは「考えて決める」意味の「判断」が正しい)。

2　問2(1)（2点）

エ

「意見をトウゴウする」＝統合（統)。ア討論（討）／イ投資（投）／ウ到着（到）／エ統一（統）→正答。すべて「トウ」と読むが、「統合」と同じ漢字を含むのはエのみ。

採点ポイント: 同音の別漢字（討／投／到）を音だけで選ばず、意味から書き分けられるか。

2　問2(2)（2点）

ウ

「二つの案をヒカクする」＝比較（比)。ア批評（批）／イ秘密（秘）／ウ比率（比）→正答／エ非難（非)。すべて「ヒ」と読むが、「比較」と同じ漢字を含むのはウのみ。

採点ポイント: 同音の別漢字（批／秘／非）を音だけで選ばず、意味から書き分けられるか。

2　問3（3点）

イ

格助詞「の」には、所有・所属を表す用法（連体修飾格）と、体言の代用（「もの」の意味）を表す用法がある。

・ア 「わたしの辞書」＝「わたしの（所有する）辞書」→所有

・イ 「大きいの」＝「大きいもの」の意味で、体言「もの」の代用→体言の代用（他と異なる→正答）

・ウ 「先生の机」＝所有

・エ 「友人の自転車」＝所有

採点ポイント:「の」のあとに体言が省略され「もの」に置き換えられる用法（体言の代用）を、所有を表す用法と区別できているか。

2　問4（3点）

イ

助動詞「れる・られる」には、受身・可能・自発・尊敬の意味がある。

・ア 「知られる」＝他から知るという行為を受ける→受身

・イ 「起きられる」＝「起きることができる」と言い換えられる→可能（他と異なる→正答）

・ウ 「ほめられる」＝他からほめるという行為を受ける→受身

・エ 「からかわれる」＝他からからかうという行為を受ける→受身

採点ポイント: 「〜することができる」と言い換えられる可能の用法を、他から行為を受ける受身の用法と区別できているか。

2　問5（3点）

ア

「三人寄れば文殊の知恵」＝一人では思いつかないことも、何人かで話し合えば良い知恵が出るという意味。親子で話し合って意外な方法が見つかった、という文脈に合う→正答。

・イ「蒔かぬ種は生えぬ」＝何もしなければ良い結果は得られないこと

・ウ「二度あることは三度ある」＝同じことが繰り返し起こりやすいこと

・エ「火のない所に煙は立たぬ」＝何の原因もなくうわさは立たないこと

採点ポイント: 「複数人で話し合うことで良い知恵が出る」という文脈に合うことわざを選べているか。

2　問6（2点）

ア

「腹を割って話す」＝隠し事をせず、本音で話すこと。言えなかった本当の気持ちを父と話せた、という文脈に合う→正答。

・イ「図に乗る」＝得意になってつけあがること

・ウ「肩を落とす」＝落胆すること

・エ「腰が重い」＝なかなか行動を起こさないこと

採点ポイント: 「本音で話す」という文脈に合う慣用句を選べているか。

2　問7(1)（3点）

ア

空欄Ⅰは「(自分たちが) 地域の方に分別の仕方も〔Ⅰ〕」＝自分たちの動作を、相手への敬意をこめて表す謙譲表現が必要。

・ア 「お伝えする」＝自分たちの動作を謙譲的に表す→正答

・イ 「伝えられる」＝受身または尊敬の意味になり、自分たちの動作をへりくだる表現としては不十分

・ウ 「おっしゃる」＝「言う」の尊敬語。自分たちの動作に使うのは誤り

・エ 「伝えてくださる」＝相手が自分たちにする動作に使う表現。ここでは主体が逆

採点ポイント: 自分（たち）の動作には謙譲語、相手（地域の方）の動作には尊敬語を使うという基本の区別ができているか。

2　問7(2)（2点）

ア

佐藤さんの「あいさつをする活動」という提案に対し、木村さんは「ごみの分別方法も伝えた方がいい」と付け加えており、提案をより地域に役立つものにする視点を加えている。

・ア「佐藤さんの提案に対して、より地域に役立つための視点（分別の説明）を加えている」→正答
・イ「そのまま否定し、まったく別の企画を提案」は本文にない
・ウ「発言を無視して」は事実と反する
・エ「強引に結論を出している」は事実と反する

採点ポイント: 出された提案を否定せずに補強する発言と、提案の否定・無視を区別できているか。

3　問1（4点）

イ

①の直後に根拠がある。「目上の人に対する言い方と、親しい友人に対する言い方では、同じ内容でも言葉の選び方がまったく異なる」とある。

・イ「相手との関係や場面に応じて、同じ内容でも言葉の選び方を変える必要があるということ」が正答
・ア「翻訳機では一切理解できない」は言い過ぎ
・ウ「性能が上がれば完全になくなる」は本文にない
・エ「できるだけ短い言葉を使うべき」は本文にない

採点ポイント: 「場面・関係」と「表現の選び方」の対応を正確に選べているか。

3　問2（4点）

ア

②の直後に「意図しない失礼な言い方になったり、逆に親しみが伝わらない言い方になったりすることがある」とある。

・ア「翻訳機の訳をそのまま使うと、場面や相手との関係にふさわしくない言い方になってしまうことがあること」が正答
・イ「内容を正確に理解できなくなり、誤解が生まれる」は本文にない
・ウ「話す速度が遅くなり、会話が成立しなくなる」は本文にない
・エ「語学教育自体がなくなる」は言い過ぎ（本文にない断定）

採点ポイント: ②の段落の話題（場面・関係にふさわしい言い方）に対応する問題点を選べているか。

3　問3（6点）

（例） その言葉が使われてきた文化や背景にも意味が込められている（28字）

正答例:

・(例1) その言葉が使われてきた文化や背景にも意味が込められている（28字）

・(例2) その言葉を使う人々の文化や背景から生まれた意味が込められている（31字）

根拠: 第6段落（「言葉の背景にある文化や習慣を調べる」）と第7段落（傍線④の直後の文「言葉を学ぶことは、訳を知ることだけでなく、その言葉を使う人々の考え方や関係の築き方を知ることでもある」）。言葉には、それを使う人々の文化や背景が結びついており、翻訳機に任せるだけではそれを見過ごしてしまうことが問題だと述べている。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
①「文化」が使えている	1点	指定語必須
②「背景」が使えている	1点	指定語必須
③ 言葉が使われてきた文化的な背景が示されている	2点	「文化や背景」等。指定語を「文化的」の形で使っていても可
④ 言葉がそれを使う人々の考え方・文化と結びついているという内容が示されている	1点	「〜が込められている」「〜と結びついている」等
⑤ 25〜35字の字数を守っている	1点	逸脱は減点

指定語の使用順序は問わない。

3　問4（4点）

ア

④の直後に「言葉を学ぶことは、訳を知ることだけでなく、その言葉を使う人々の考え方や関係の築き方を知ることでもあるのである」と述べられている。

・ア が正答

・イ「処理速度が向上していく」は本文にない

・ウ「授業では好まれない」は本文にない（学び方の好みの話ではない）

・エ 翻訳機で考え方まで分かるとするのは、④の「技術に任せれば言葉の壁はなくなる」という発想そのもので、筆者が「見えてこない」とする内容と逆

採点ポイント: ④の直後の一文を根拠として正確に対応づけられているか。

3　問5（5点）

イ

「適切でないもの」を選ぶ問題。

・ア: 冒頭「『自動翻訳機』と聞くと……思う人が多いだろう」という一般的な思い込みを示し、それをくつがえす展開になっている→適切

・イ: 本文には翻訳精度の国際比較調査の統計は登場しない（ことわざや場面による言い方の違いが定性的に説明されるのみ）→不適切→正答

・ウ: ことわざや、目上・友人への言い方の違いの例で、翻訳機が届かない領域を説明している→適切

・エ: 「自動翻訳機が無意味だという話ではない」と限界にも触れつつ、言葉を学ぶ意味を見直すことの大切さを述べている→適切

採点ポイント: 「具体例がある」ことと「統計データで科学的に補強している」ことの区別。

3　問6（5点）

イ

本文全体の主旨:

・自動翻訳機があれば言葉を学ぶ必要はないという思い込みをくつがえし、訳せない領域（ことわざ・場面による言い方の違い）を紹介

・一方で、単語の意味確認や大まかな内容把握には翻訳機は役立つ

・結論:「翻訳機があれば言葉を学ぶ必要はない」という単純な見方をやめ、言葉を学ぶ意味を見直すことが大切

・イ「自動翻訳機は便利な道具であるが、言葉を学ぶことには、訳を知ることだけでは得られない価値がある」＝結論と一致→正答

・ア「どんな場面でも誤解のない会話ができる」は言い過ぎ

・ウ「まったく不要になる」は本文の主旨と正反対

・エ「外国語教育を減らす必要がある」は本文にない

採点ポイント: 役割と限界、両方に目を配った筆者の均衡のとれた主張を捉えているか。

4　問1（4点）

いかにもしてたろうじをすくわんとおもいて

「救はん」の「は」は語中のハ行。歴史的仮名遣いでは、語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は現代仮名遣いで「わ・い・う・え・お」に直す。

・太郎次 → たろうじ（人名の読みは（注）に示してある）

・救（すく）はん → すくわん

・思（おも）ひて → おもいて

採点ポイント: すべてひらがなで「いかにもしてたろうじをすくわんとおもいて」と書けて正答。「はん」「ひて」のまま（直し忘れ）は不正解。

4　問2（4点）

イ

家臣の言葉そのものに根拠がある。「今引き返さば、我が軍、全滅の恐れあり」「太郎次一人のために、多くの兵を失ふは、いかがなものか」から、一人を救うための引き返しが軍全体を危険にさらすという懸念が読み取れる。

・イ「一人を救うために引き返すと、軍全体が危険にさらされると考えたから」が正答

・ア「太郎次が信頼されていなかった」は本文にない

・ウ「次郎太の判断力に疑いを持ち、指揮を執ろうとした」は本文にない

・エ「敵の数が少ないと油断していた」は本文にない（むしろ全滅の恐れを心配している）

採点ポイント: 家臣の懸念が「太郎次個人への不信」ではなく「軍全体の危険」にあることを読み取れているか。

4　問3（4点）

（例） 仲間の心が一つにまとまらない（14字）

正答例:

・(例1) 仲間の心が一つにまとまらない（14字）

・(例2) 残る兵の心が一つにならない（13字）

根拠: ③「一人を見捨てて進む軍に、まことの力はあらじ。太郎次を救ひてこそ、残る兵も、心を一つにして戦ふべし」。仲間を見捨てれば、残る兵の心が一つにまとまらず、本当の力が生まれないと次郎太は判断した。空欄のあとに「本当の力を出せない」とあるので、空欄にはその理由にあたる「残る兵（仲間）の心が一つにまとまらない」を書く。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
① 仲間（残る兵）の心がまとまらない（団結しない）という内容が示されている	3点	「心が一つにならない」等（「本当の力はない」の言い換えだけのものは、空欄のあとの内容のくり返しなので不可）
② 現代語として自然で、10〜20字の字数を守っている	1点	古語の残存・字数逸脱は減点

4　問4（4点）

イ

④「一人を助くる心なくして、多くを守ることはかなはず。小さきことを軽んずる者は、大きなることをも成し得ず」をそのまま言い換えた選択肢を選ぶ。

・イ が正答

・ア「小さなことは気にせず進むべき」は本文と正反対

・ウ「兵の数を何よりも優先」は本文にない（次郎太はむしろ一人を救うことを優先した）

・エ「家臣の意見には従わず」は本文にない（家臣の懸念を踏まえつつ、自らの判断を語っている）

採点ポイント: ④の一文を正確に言い換えた選択肢を、本文にない要素や正反対の内容を含む他の選択肢と区別できているか。